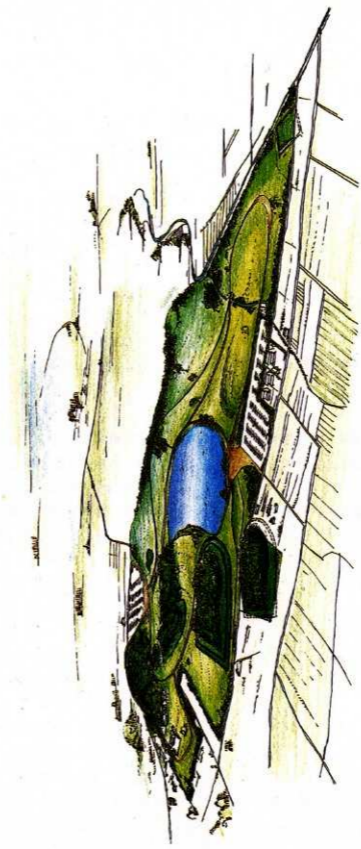


大室公園史跡整備基本構想

平成2年度

前 橋 市
前橋市教育委員会





大室公園史跡整備基本構想図

はじめに

大室地区は、前橋市の東部に位置し、地区内に国指定史跡の三二子古墳、五料沼などを有し、四季をとおして歴史と自然環境に恵まれた、6世紀の上毛野の古墳文化を語り知る東日本有数の場所であります。

前橋市では、この地域を第4次前橋市総合計画の中で「大規模公園の整備地区」として位置づけ、すでに、地元地権者の皆様をはじめ、多くの方々の協力をいただきまして、37ヘクタールの総合公園用地も取得し、その整備に積極的に取り組んできているところです。

しかし、整備着手にあたっては、この事業が、貴重な史跡を取り込んだ総合公園計画として全国的にも稀で、各方面から注目されているため、長期的展望にたった公園内の史跡整備計画の立案は不可欠となっております。

そこで、昨年度より、大室公園史跡整備委員会・幹事会を設け、専門家・学識経験者等の協力を得て会議を重ね、幅広く貴重な意見をいただきまして、ここに大室公園史跡整備基本構想を策定することができました。

平成3年度からは、市としても、この構想を基に、公園整備・史跡整備・関連施設建設の実現に向け、全力を傾け努力を重ねる所存でありますので、今後とも関係各位のご理解とご協力を心からお願い申し上げます。

終わりに、基本構想の策定にあたりご尽力をいただいた文化庁の加藤允彦調査官、委員会・幹事会の先生方、並びに関係者に対して深甚なる感謝を申し上げます。

平成3年3月

前橋市長

藤 島 清 多

基本構想策定にあたって

国指定史跡前二子古墳、中二子古墳、後二子古墳附小古墳は、前橋の市街地より東方12km、名山赤城山南麓の西大室地区に位置しています。この地は、前橋市内でも多くの古墳、居館址、住居跡、その他の遺跡を包蔵しているところで、古代の名族上毛野氏との関係も深い所です。三二子古墳は保存状況もよく、それを取り巻く自然林や五料沼をはじめとする環境は、起伏に富む豊かな自然景観を残している風光明媚な地です。

かつて、私が前橋市教育委員会社会教育課に在職していたころから大室公園計画を大嶋委員さんと一緒に話し合ったものでした。それからすると20年余りの年月が過ぎております。このたび、前橋市の総合計画により、豊かな史跡・自然景観を生かし、市民が憩える公園として大室公園整備事業が計画されました。それに先立ち、史跡を中心に大室公園史跡整備基本構想を策定いたしました。将来にわたり名実共に前橋市を代表する史跡として保存整備が進められることを期待するものです。

大室公園史跡整備基本構想を策定するにあたっては、文化庁、委員、幹事の先生方の学識に裏打ちされた積極的で斬新なご意見・ご提言を基に、基本構想として計画を集約させることができました。この間の教育委員会文化財保護課と公園緑地部公園緑地課の職員で構成された事務局での検討、話し合い、調査に感謝を表したいと思います。立場の異なる課が、大室公園史跡整備を実施するにあたり、結束して一つの組織として活動できたことは大変喜ばしいことで、大室公園造成と史跡整備・史跡保存について、今後とも十分検討し連携を取りながら、年次計画による事業の進捗が図られることを期待します。

最後に、文化庁、群馬県教育委員会、委員、幹事、事務局の方々の労苦に感謝すると共に、今後とも構想の実現に向けてご指導・ご協力をお願いいたします。

平成3年3月

大室公園史跡整備委員会

委員長 近 藤 義 雄

例 言

- ・ 本基本構想は、大室公園史跡整備委員会を組織し、指導・助言を得て、事務局で計画をまとめた。
- ・ 大室公園史跡整備委員会は、考古学・建築・史跡整備・公園整備等の専門家で構成され、文化庁・群馬県教育委員会の指導を受けた。
- ・ 事務局は、前橋市教育委員会文化財保護課と公園緑地部公園緑地課の職員で組織され、両課は協力して調査研究・討議・計画立案を積重ねた。
- ・ 前橋市・前橋市教育委員会は、髷歴史環境計画研究所（東京都武蔵野市吉祥寺東町2-17-1）に基本構想策定を委託した。

大室公園史跡整備基本構想内容目次

I. 構想の概要

- | | |
|---------------|---|
| 1. 構想の目的 | 1 |
| 2. 構想の位置づけ | 2 |
| 1) 構想内容の位置づけ | |
| 2) 市政における位置づけ | |
| 3. 計画地の概要 | 6 |
| 1) 位置 | |
| 2) 計画範囲 | |
| 3) 交通網 | |
| 4) 周辺文化財 | |
| 5) 景観 | |
| 6) 事業計画範囲 | |
| 7) 計画地内遺跡の概要 | |

II. 大室公園遺跡の内容と特色

- | | |
|-------------|----|
| 1. 調査の経過と成果 | 17 |
| 1) 調査の経過 | |
| 2) 調査の成果 | |
| 2. 遺跡の位置づけ | 32 |
| 3. 遺跡の特色 | 36 |

III. 構想の内容

1. 基本方針	37
2. 環境保全および整備	37
3. 遺跡の保存整備	41
4. 遺跡付帯施設	51
5. 便益施設	56
6. 利用計画	57
7. 維持管理計画	57
8. 基本構想図	58
9. 事業計画	60

IV. 附

1. 大空公園史跡整備委員会の経過	62
2. 大空公園史跡整備委員会の設置及び運営費綱	63
3. 大空公園史跡整備委員会組織	64

Ⅰ. 構想の概要

1. 構想の目的

前橋市のかけがえのない歴史的遺産である史跡（前・中・後二子古墳他）を保存・活用していくため、一帯の公園計画との調和のとれた構想を策定する。

前橋市東部の赤城山南麓地帯に位置する大空地区は、群馬県でも遺跡の多い地域の一つである。特に、前・中・後の三つの前方後円墳と小二子古墳（昭和2年史跡指定）は、名族上毛野氏との関係も推定され、東日本の古墳文化を考える上で欠かすことのできない遺跡として古くから著名である。

また、一帯は赤城山や谷川連峰をのぞむ風光明媚な地区として知られ、風趣に富む景観に恵まれている。

前橋市では、こうした豊かな歴史的、自然的環境を生かし、市民の憩いの場としていくため、一帯およそ37ヘクタールに総合公園の建設を計画した。

建設にあたり、計画地内の史跡、三子古墳（前二子、中二子、後二子附小古墳）およびその他の遺跡の保存・整備方針を打ち出し、総合公園の計画の中に位置づけ、公園計画との調和をはかっていくことが必要となった。

本構想は、史跡三子古墳を中心とした計画地内の遺跡を地区の恵まれた自然環境や公園計画を踏まえ、保存し、活用していくための整備方針を検討するものである。

2. 構想の位置づけ

1) 構想内容の位置づけ

三二子古墳を中心とした計画地内遺跡の保存・活用を基盤とし、計画地内全体の環境整備の方針を検討するものである。

本計画は、史跡三二子古墳をはじめ計画地内に所在する遺跡の特色を把握し、計画地の現況と概要を踏まえたうえで、遺跡の保存・活用の見地から、計画地全体の施設配置その他の環境整備方針を検討するものである。

今後さらに関係諸機関での討議を経て、総合公園としての具体的方針が検討される。

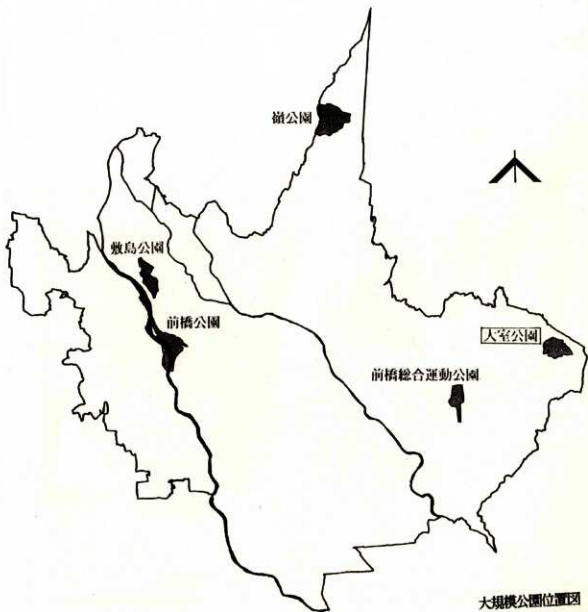
2) 市政における位置づけ

『第4次前橋市総合計画』において、大規模公園の整備における大空公園史跡整備として位置づけられている。また『前橋市歴史環境広域整備基本構想』では、大空歴史環境整備地区として、前橋全域の歴史環境整備計画のなかに位置づけられている。

第4次前橋市総合計画

「活力と魅力ある総合機能都市を目指して」を目標に、これを実現していくための施策推進の方向を、「活力に満ちた産業のまち」、「安らぎのある福祉のまち」、「明日をひらく教育・文化のまち」、「潤いのある住みよいまち」と定め、各々検討を行っている。

大空地区および三二子古墳については、「明日をひらく教育・文化のまち」のなかで、三二子古墳の整備について述べられているとともに、「潤いのある住みよいまち」では、本計画地域が大規模公園の整備地区と位置づけられ、「恵まれた自然環境を活かした各種の公園機能と、史跡の保存・活用を図る歴史公園的機能も兼ねた総合公園」として検討されている。

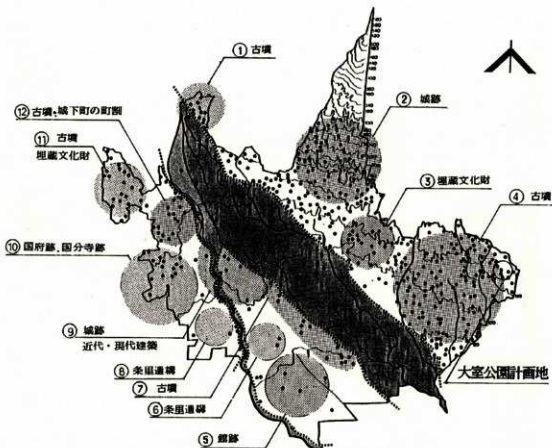


前橋市歴史環境広域整備基本構想

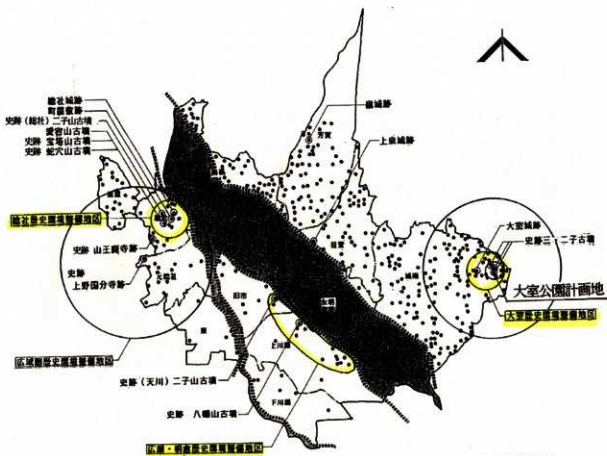
市内に数多く存在する遺跡・文化財を保存・活用することにより、新しくうらおいのある環境を創造することを目指して策定された。

前橋市の都市動向（人口推移、農用地面積の推移等）および、歴史的遺産の特色と問題点を分析・整理し、市の歴史環境整備の方針を検討した。

このなかで大室地区は、特に多くの歴史的遺産が集中的に存在する地区として捉えられ、史跡三子古墳を中心に地区全体の歴史的遺産を総合的に整備していく大室歴史環境整備地区と位置づけられている。



前橋市歴史的環境分布図



前橋市歴史環境整備構想図

3. 計画地の概要

1) 位置

前橋市西大空町、東大空町地区（市中心部から約12km）

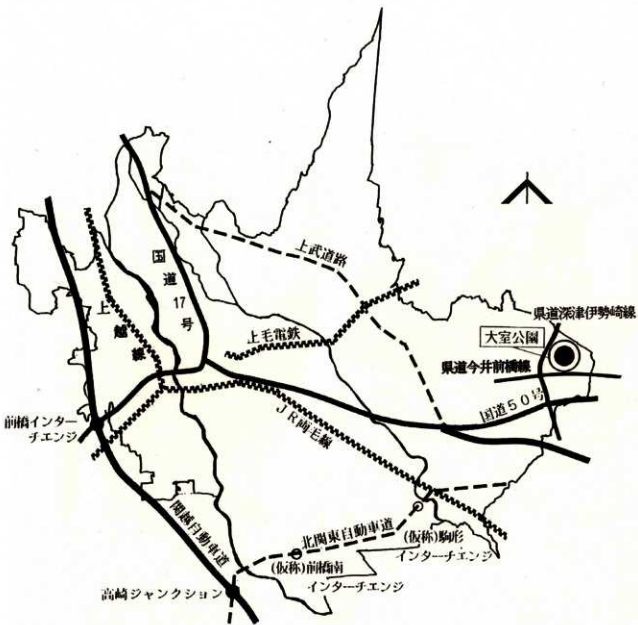
2) 都市計画

計画地周辺は、現在農業振興地域として位置づけられている。現況では特に急激な開発による環境破壊のおそれはないが、国道50号線の拡幅や上武道路の建設にともない、周辺の宅地化が進むことも予想される。現在の良好な景観を将来ともに維持していくため、景観保存地域の設定等、都市計画的な配慮を検討することが望まれる。

3) 交通網

計画地は、JR両毛線および上毛電鉄の駅からは、いずれも距離があるため、公園建設後は、車の利用による来訪が大半を占めることが予想される。

計画地へ至る幹線道路として主要なものに国道50号線、敷地南側を通る県道今井前橋線と敷地西側を通る県道深津伊勢崎線があげられる。「第4次前橋市総合計画」では、50号線の東部環状線との交差点東から、上武道路との交差点区間までの拡幅整備の促進、および上武道路の50号以北の早急な建設の促進が記されており、施策実現のおりには、50号線の交通量の増加とともに、上武道路が新たに計画地に至る幹線道路として利用されることが予想される。



前橋市交通網

4) 周辺文化財

大空地区が所在する荒砥地域は、文化財の多い前橋市の中でも、特に文化財が集中している地域であり、各時代にわたり数々の文化財が分布する。

今後、三二子古墳の整備および公園計画とともに、これらの文化財の保存・活用を検討していくことが望まれる。

荒砥地域の主な文化財

名 称	指 定	所 在 地
前二子古墳	国史跡	西大空町 二子山
中二子古墳	国史跡	東大空町 五料
後二子古墳附小古墳	国史跡	西大空町 内堀
今井神社古墳	市史跡	今井町
多田山古墳群		東大空町
大空城跡		西大空町
二宮赤城神社		二之宮町
社地	市史跡	
納骨利面	県重文	
梵鐘	市重文	
絵馬	市重文	
三番叟附伝授書	市無文	
無量寿寺		二之宮町
地藏菩薩立像	市重文	
十一面観音立像	市重文	
産泰神社		下大屋町
八稜鏡	市重文	
太々神楽	市無文	
慈照院千手観音坐像	市重文	二之宮町
普蔵寺供養塔	市重文	東大空町 最善寺
泉沢の獅子舞	市無文	泉沢町 泉沢神社
稲荷藝節	市無文	泉沢町

記号

□	前方後円墳
卍	寺院
卍	神社
△	城・砦跡
□	古碑・古塔・古墓
△	その他
▼	文化財めぐり道しるべ
□	文化財めぐりコース 総合案内板



5) 景観

計画地一帯は、赤城山南面すそ野特有の、なだらかな起伏に富む地形に、五料沼を中心とした溜池や所々に群生する雑木が風趣を添える美しい景観に恵まれている。

特に五料沼南側から赤城山を望む眺望は素晴らしく、こうした現況の良好な景観を、計画に活かすべき検討を行うことが必要となろう。



公園予定地西北部竹林



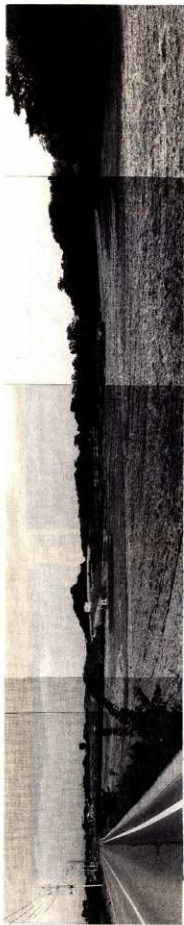
後二子古墳



後二子古墳石室



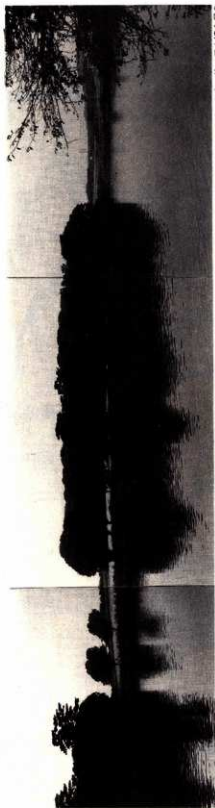
小二子古墳



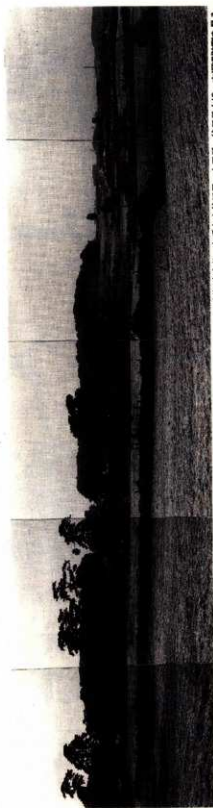
北西隅、公團入口および野田町子地区より、中央に五新沼、右手に依二子台墳群を見る



五新沼の内外沼群より、右手に三子台墳群を見る



五料沼原より、左手に中二子古墳、中央に後二子古墳を見る。



五料沼原より、左手から前二子、中二子、後二子古墳、内庭園跡を見る。

6) 事業計画範囲

現況での公園計画範囲および計画地内における史跡指定範囲は次のとおりであるが、今後、史跡の保護および公園機能の充実・拡充の点から、一部隣接する未買収地区を新たに公有化していくことが望まれる。

計画地面積	369,000 m ² (36.9 ha)
史跡指定地面積	46,605.13 m ²

2024 → 1315

史跡指定地面積内訳

- ・前二子古墳(昭和2年4月8日指定) (単位:m²)

合計	内 訳			
	国有地	公有地	社寺有地	民有地
10,956.13	0	10,956.13	0	0

2024 2028 14

- ・中二子古墳(昭和2年4月8日指定) (単位:m²)

合計	内 訳			
	国有地	公有地	社寺有地	民有地
23,366	11,214	11,852	0	300

23065

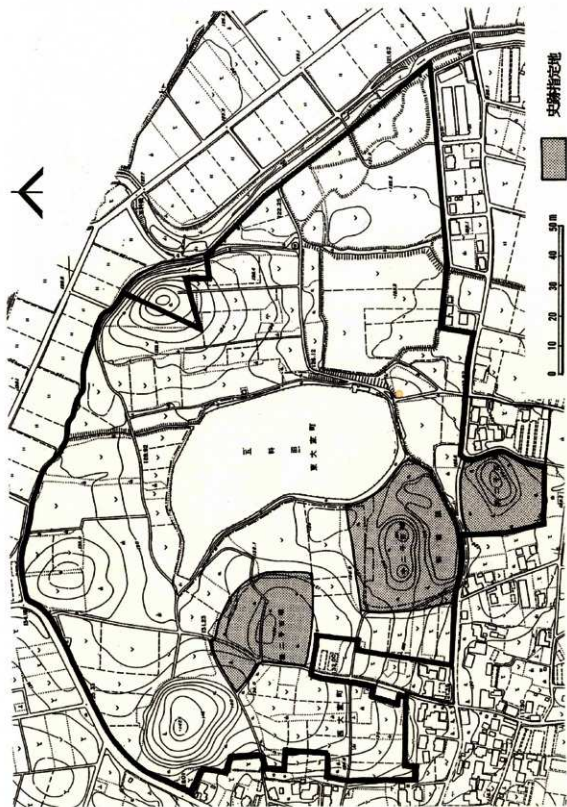
2021

- ・後二子古墳附小古墳(昭和2年4月8日指定) (単位:m²)

合計	内 訳			
	国有地	公有地	社寺有地	民有地
12,283	0	12,283	0	0

2024 2028 14

2024 2028 14



区画設計案用図

7) 計画地内遺跡の概要

現在計画地には、国史跡の前・中・後と小二子古墳の4つの前方後円墳の他、帆立貝式古墳1基（M1号墳）、円墳6基（M2、M3、M4号墳他）、居館跡（梅木遺跡）、多数の住居跡が確認されている。

主な遺跡の概要は次のとおりである。

名称	概要	備考
前二子古墳	全長92m、前方部幅61m、後円部径71mの前方後円墳。明治11年の発掘により、鏡、馬具、須恵器、土師器、四神付飾土器（国認定旧重要美術品）など多数横穴式石室（自然石乱石積、全長14m）より出土。6世紀初頭築造。	国史跡
中二子古墳	全長107.5m、前方部幅74m、後円部径65mで、大室三子古墳の中で最大の規模の前方後円墳である。墳丘は二段に築造され、二重の周堀を持つ。主体部は、未発掘のため不明である。6世紀中頃築造。	国史跡
後二子古墳	全長76m、前方部幅60m、後円部径50mの前方後円墳で両袖型の横穴式石室をもつ。明治11年の発掘で、石室より刀、土師器、須恵器、耳環等を出土。6世紀末築造。西側につけたりの小古墳（前方後円墳）がある。	国史跡
小二子古墳 （附小古墳）	全長43mの前方後円墳。出土品に直刀二口の記録があるが現在は失われている。	国史跡
M1号墳	全長35.2m、後円部径26.4m、前方部幅17.8mの帆立貝式古墳である。主体部は大半破壊されていたが、横穴式石室である墳丘上から多くの形象埴輪群が検出された。	
梅木遺跡	堀と櫓列により方形に区画されており、西側に張り出し部を有す。一辺は外側で約85m、内側で約65mである。その形態等から当時の有力者の居館跡と推定される。	

II. 大室公園内遺跡の内容と特色

1. 調査の経過と成果

1) 調査の経過

史跡三二子古墳は、現在に至るまで本格的な発掘調査が行われていない。明治11年、村民の手により前二子および後二子古墳の石室が開口され、多数の副葬品が出土した。梅木遺跡およびM1号墳は大室公園整備計画に伴う確認調査で発見された。

調査の経過表

名称	年 度	概 要
前 二 子 古 墳	明治11年 (石室開口)	村民が狐・狸を捕獲するために掘った穴に石室の左壁があたり、長大な横穴式石室が開口して、鏡、須恵器、土師器、馬具、玉類等多数の副葬品が出土した。地元では、この時の様子を『室内出土品書上簿』としてまとめ、県令にあてて提出した。
	明治13年 (アーネスト・サトウによる 現地調査)	アーネスト・サトウにより現地調査が行われた。サトウは、この結果を、石室の詳細な計測値、村民の聞き取り等を基にした副葬品の配列復原のスケッチ等としてまとめ、これに考察を加えて、『日本アジア協会紀要』8巻3号に発表した。
	昭和10年 (分布調査)	県下一斉の古墳の分布調査が実施された。この結果は昭和13年『上毛古墳綜覧』としてまとめられ、前二子古墳は荒砥第51号墳として記載された。
	昭和27年 (石室実測調査)	群馬大学学芸学部史学研究室により石室の実測調査が行われた。
	昭和32年 (墳丘実測調査)	群馬大学学芸学部史学研究室により墳丘の実測調査が行われた。
中 二 子 古 墳	昭和10年 (分布調査)	県下一斉の古墳の分布調査が実施された。この結果をまとめた『上毛古墳綜覧』に荒砥第229号墳として記載された。
	昭和32年？ (墳丘実測調査)	墳丘の実測調査。

名称	年 度	概 要
後 二 子 古 墳	明治11年 (石室開口)	村民が偶然石室を掘り当てたことから、横穴式石室が開口して、鉄刀、鉄鏝、馬具破片、金環、須恵器等多数の副葬品が出土した。地元ではこの時の様子を『室内出土品書上簿』としてまとめ、県令にあてて提出した。
	昭和10年 (分布調査)	県下一斉の古墳分布調査が実施され、昭和13年の『上毛古墳綜覧』に荒砥第55号墳として記載された。
	昭和27年 (石室実測調査)	群馬大学学芸学部史学研究室により石室の実測調査が行われた。
	昭和32年 (墳丘実測調査)	群馬大学学芸学部史学研究室により墳丘の実測調査が行われた。
小 二 子 古 墳	明治11年頃 (発掘?)	発掘についての記録はないが、直刀二口が出土したことが伝えられている。
	昭和10年 (分布調査)	県下一斉の古墳分布調査が実施され、昭和13年の『上毛古墳綜覧』に荒砥第56号墳として記載された。
	昭和32年 (墳丘実測調査)	群馬大学学芸学部史学研究室により墳丘の実測調査が行われた。
梅 木 遺 跡	昭和60年 (居館跡発見)	大室公園整備に先立ち、公園計画地内に散在する民家13戸の移転先の事前調査。縄文時代から中近世に至る様々な遺構が検出され、特に三二子古墳との関連も考えられる古墳時代の有力者の居館と思われる遺構は全国的にも貴重な例として注目された。この結果を踏まえ、館跡部分は平均50cmの盛土を行い、現状保存の処置がとられた。
内 堀 遺 跡 群	昭和62年 (全域確認調査)	大室公園整備に先立つ埋蔵文化財の分布確認調査。調査の結果、住居跡や古墳(M1~M4)等多くの遺構が確認され、それらの遺構を中心に広くほぼ全域にわたり土器片や埴輪片などが出土した。
	昭和63年 (M1号墳発掘)	前年度の調査結果をもとに、公園に伴う施設建設が考えられる計画地の北西部約1haについて発掘調査を実施した。その結果、住居跡19軒、土坑411基等の遺構が検出されるとともに、M1号墳の全容が把握され、形象埴輪の配列が確認された。
	平成元年	昭和63年度調査区の西側を中心に、約1.26ヘクタールについて、発掘調査を実施した。その結果、近世以降現代に至るまでの土坑、平安時代の地割れ、古墳時代の住居跡17軒、円墳(M5号墳)、石槨墓等が検出された。

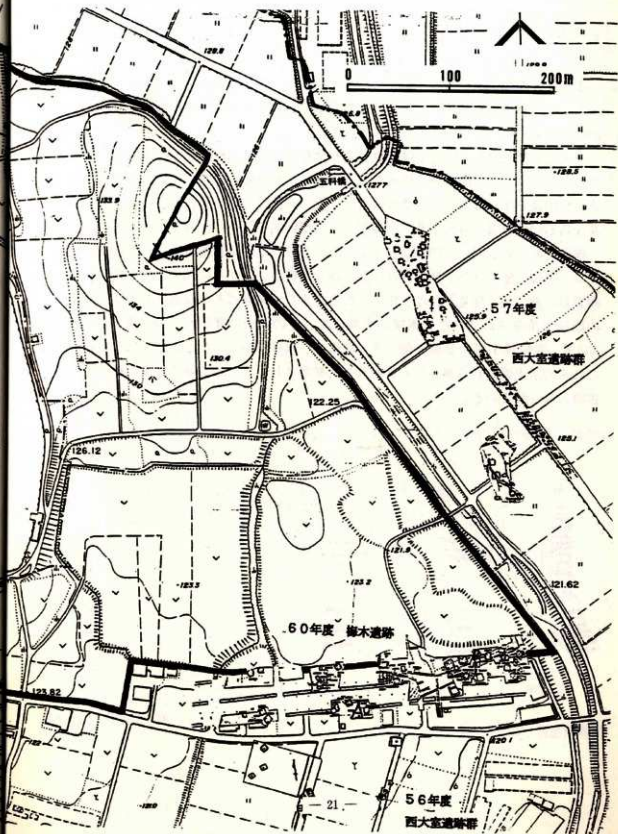
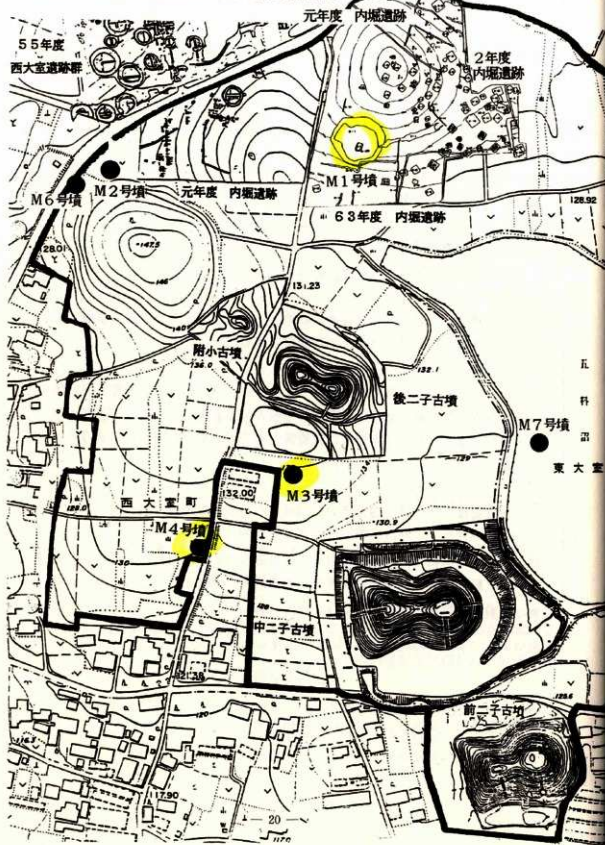
2) 調査の成果

これまでの調査成果から計画地内の遺跡について以下のような把握がなされている。

● 計画地全域

1. 計画地内からは、縄文時代から中近世に至る遺構が確認されているが、古墳時代中・後期の遺構が最も多い。
2. 三二子古墳が所在する五料沼の西側は、上縄引遺跡を含め、北から南にかけて、弥生時代からの一大墓域であった。
3. 住居跡は、計画地の北側にあたる地区一帯が最も密度が高く、墓域である五料沼西側一帯には点在する程度である。
4. また、その時代的分布傾向の変化をみると、4世紀代には、北西側に集落の中心があり、それに対応する墓域として計画地に隣接する上縄引遺跡が営まれたが、5世紀代には集落の中心が北東側に移動したようである。
5. 5世紀後半代には、有力者の居館跡とみられる施設が出現した。
6. 三二子古墳の築造は6世紀初頭からとみられ、梅木遺跡の出現とともに5世紀後半から6世紀にかけて、この地区にそれまでみられなかった有力者の出現があったことがうかがわれる。

大室公園子定地発掘調査結果



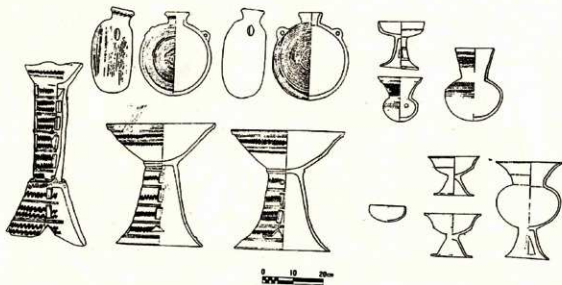
● 主な遺跡の内容

前二子古墳

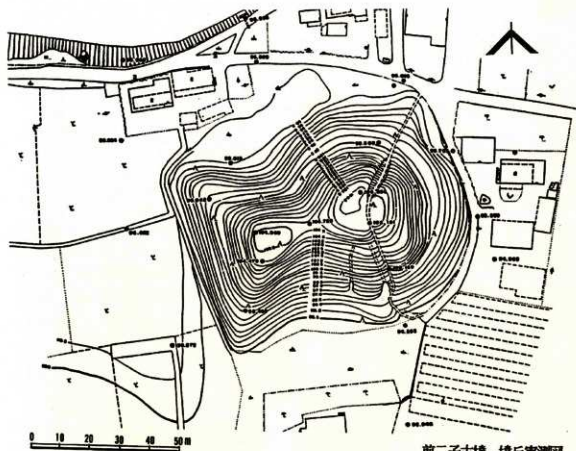
正式な発掘調査はなされていないが、明治11年の石室開口のさいの記録やアーネスト・サトウの現地調査により、石室の形態や規模および副葬品の配置について、かなり具体的に把握できる。

石室は墳丘の主軸に対してほぼ直交する全長13.7mの自然石乱石積の横穴式石室である。全長の2/3弱を羨道に割り振っており、玄室幅も比較的狭いため、極めて長大な印象を与える。天井、壁体はほぼ全面に赤色顔料が塗彩されており、玄室は間仕切石により区切られ、前半が前室、後半が奥室のように区画されている。

前室にあたる玄門から間仕切石までの間に土器16個が両側壁および玄門に接して「コ」字形に配列され、奥の間仕切石に接して甕が、これらに囲まれた中央からは須恵器、鉢、鏡が発見されたと伝えられる。また、奥室にあたる箇所からは、部屋の四隅に設置されていた金銅製の香葉4枚、その中央に置かれていた青色ガラス300個、鉄製鉢1振、耳環1個、その他鉄片、鏡等が出土したと記録されている。これらの出土遺物から築造は6世紀前半と推定され、三子古墳のなかで最も古い古墳とみられている。



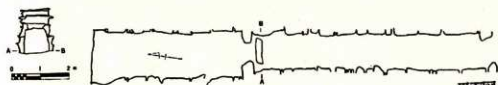
前二子古墳 出土土器



前二子古墳 墳丘実測図

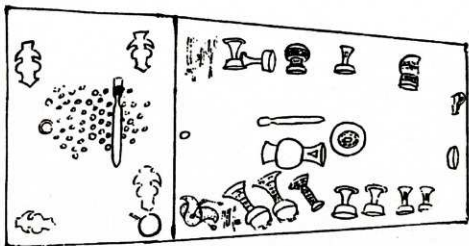


断面図



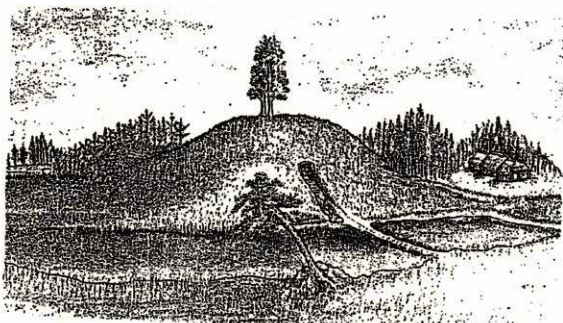
平面図

前二子古墳 石室実測図



前二子古墳 遺物出土見取図

『室内出土品書上簿』より



前二子古墳 石室入口付近のスケッチ

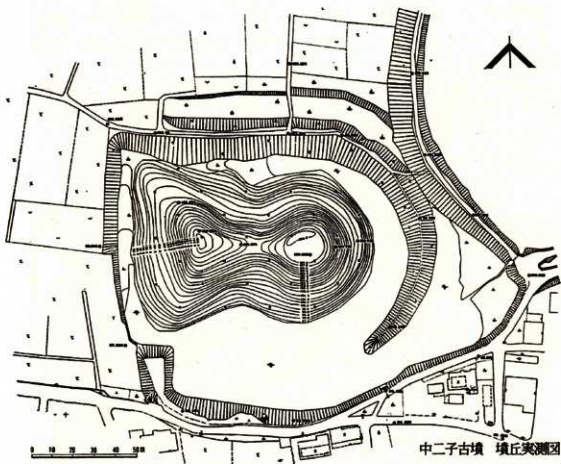
E. サトウ画

中二子古墳

石室等の開口の記録がないため、三二子古墳のなかで最も内容が不明な古墳となっている。規模は三二子古墳の中では最も大きく、周囲には楯形の内堀と中堤さらに外堀をかまえる二重周堀が廻らされている。後世、この堀が灌漑用溜池に利用され、一部中堤が除去されて水が溜められたため、県内で唯一水を湛えた古墳として知られている。

墳丘は二段築成で、葦石、埴輪類が施設されているが、詳細は不明である。主体部は未発掘であるが、南北に隣接しあっている前二子古墳、後二子古墳同様に横穴式石室であろうと推定されている。

三二子古墳のなかでも被葬者の力が最盛期に達した時期のものと思われ、学術的な調査の実施が望まれる。



後二子・小二子古墳

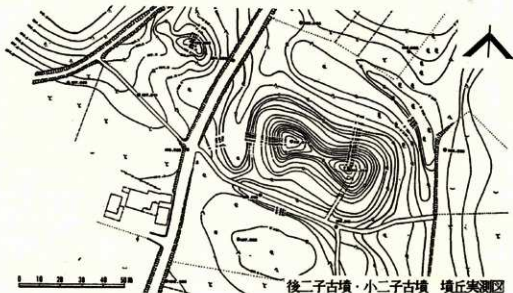
前二子古墳同様、明治11年に村民によって石室が開口されており、そのさいの記録が残されている。

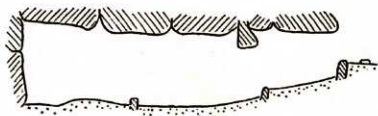
石室は、墳丘主軸にほぼ直交し、南南西方向に開口している。石室入口が破壊されているため全長は明らかでないが、現状で8.40mの自然石乱石積みの両袖型横穴式石室である。前二子古墳に比べ、石室を構築する安山岩が大きく、奥壁・天井石には、特に巨石を用いている。群馬県内では6世紀前半に伝わった横穴式石室が、次第に巨大化し、7世紀前半には高崎市観音塚古墳に見られるように奈良県石舞台古墳に匹敵する巨石巨室の石室が出現するが、後二子古墳にもそうした傾向がハッキリと表われている。

玄室が間仕切石によって前後に二分されており、前室・奥室のような形態となっている点は前二子古墳と同様であり、ここから土器、太刀、鉄鏃、小刀、²⁶鐸、響、金環等が出土したことが記録されている。これらのことから6世紀の末の築造と考えられ、特にその石室に、6世紀から7世紀に至る群馬県の古墳の過渡的な特色がみとれる。

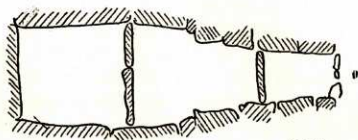
後二子古墳の前方部北東には、後二子古墳と主軸方向をそろえて、全長43mの小二子古墳が存在する。前二子古墳、後二子古墳と同じく明治11年頃に発掘され、直刀二口が出土したことが伝えられるが、現在は不明である。

後二子古墳と何らかの関連を有していることが推定されるが、詳細は不明である。





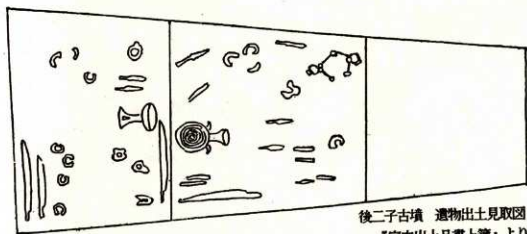
断面図



平面図

後二子古墳 石室夾測図

群馬県史蹟名勝天然記念物調査報告第一号 昭和4年

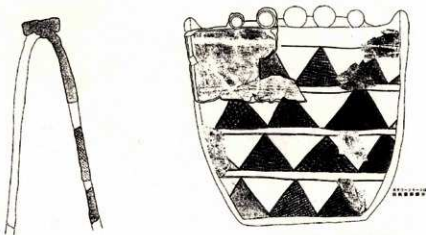


後二子古墳 遺物出土見取図
『室内出土品書上簿』より

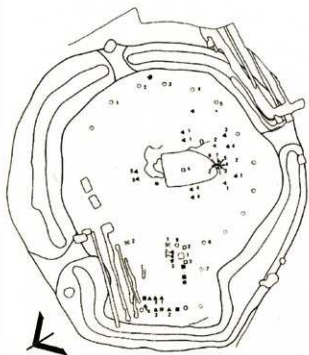
M1号墳

全長35.2m、後円部径26.4m、前方部長さ6.5m・幅17.8mの帆立貝式古墳である。主体部は、横穴式石室であるが、後に炭窯として利用されたため既に石材の殆どが動かされ、一部石室掘り方も破壊されていた。残された掘り方から構造は横穴式両袖型で、玄室部の規模はおよそ全長4m、幅2.5m、羨道部は長さ1.8m、幅1.36mと推定された。石室入口部左側からは墓前祭りで供献されたと推定される土師器の杯が7個出土し、掘り方の攪乱土の中からは副葬品の一部と思われる鉄鏃、小刀等が出土した。墳丘は現在基壇のみが残されており、盛土は埋葬主体部付近に50cmみられるだけであった。おそらく、埋葬主体部を被覆するのみの最小限のマウンドであったと推定される。墳丘上には主体部を取り囲むように配列された大刀、盾、^鞍などの器財埴輪群をはじめ、馬、家、人物など多くの形象埴輪群が検出された。これら形象埴輪は、主体部周辺の器財埴輪群と家形埴輪から成るグループ（A群）、くびれ部に配列されていた家形埴輪、馬形埴輪、人物埴輪、器財埴輪群から成るグループ（B群）、前方部前面に配列されていた人物埴輪、馬形埴輪、器財埴輪群から成るグループ（C群）に大きく別れており、その配列は一つの物語を形作っているものと推定される。

これらの出土遺物等から築造は6世紀の後半代と考えられ、三子古墳の中二子と後二子の間に造られたことが推定できる。形象埴輪列の配列とともに、大室古墳群の位置づけを考える上で欠かすことのできない古墳である。



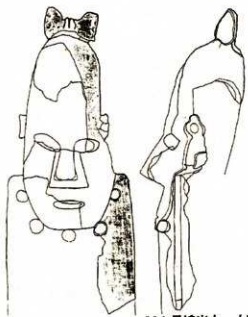
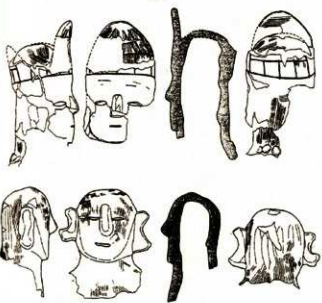
M1号墳出土 家形埴輪



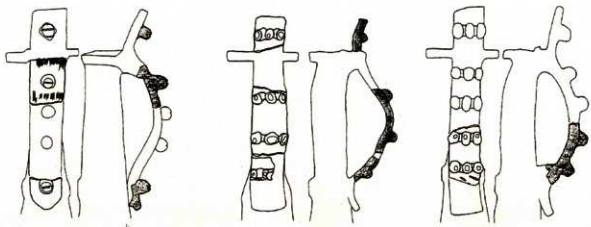
M1号墳 墳丘実測図



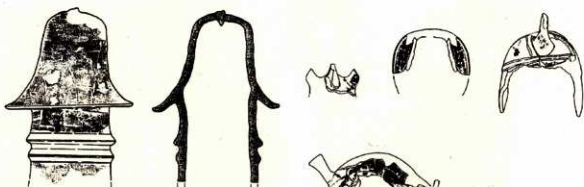
- 普通円蓋
- 朝顔型円蓋
- ▲ 壺
- ▲ 甗
- ▲ 甗
- ▲ 甗
- ▲ 甗
- ▲ 手
- ▲ 大刀a
- ▲ 大刀b
- ▲ 大刀c
- 室蓋
- 石棺を中する男子像
- 女子像
- 成人?
- 男子像
- 鹿矢
- 鹿持ち人1
- 鹿持ち人2
- 輝灰土器
- 須恵器土器
- 伊奈土器



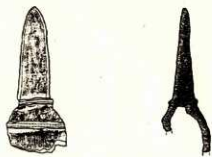
M1号墳出土 人物埴輪



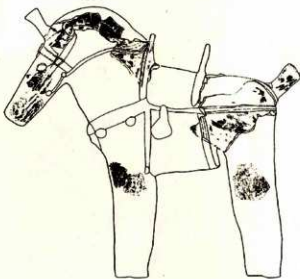
M1号墳出土 器財埴輪(大刀)



M1号墳出土 器財埴輪(帽子)



M1号墳出土 器財埴輪(牙)



M1号墳出土 馬形埴輪

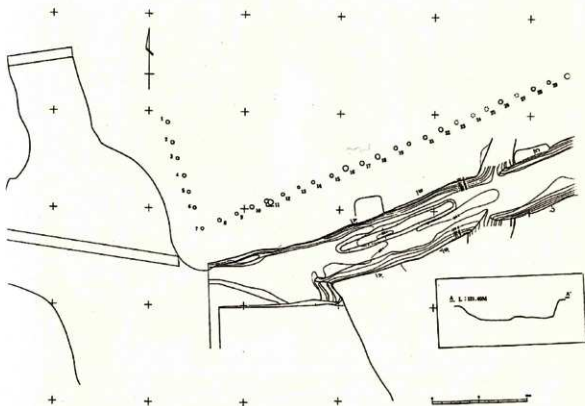
梅木遺跡

昭和60年度の調査で南側の堀と柵列、および西側の一部が検出され、一辺85mで西側に張り出し部を持つ居館跡と考えられている。

堀は幅4mから6.6mで、断面形は逆台形であると思われる。柵列は堀の内側に堀と平行して1.8m前後の間隔で検出され、西側の張り出し部では部分的に2個あるいは3個が並列している個所も発見された。居館跡の入口施設とも考えられる。

これらの堀や柵列は古墳時代中期後半の住居跡を切って構築されており、こうした切り合い関係や、堀の底部付近に認められる標名二ツ岳降下FA層の堆積から、居館跡の築造時期は5世紀後半から6世紀初めと考えられる。

築造時期が、三二子古墳の造営が始まる直前であることから、三二子古墳との深い関連が推定でき、ほぼ同時期に標名山南麓に築かれた三ツ寺遺跡（居館跡）と保波田三古墳の存在とから極めて興味深い遺跡である。

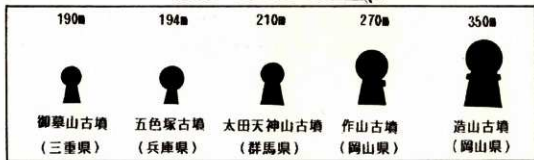


第12図 居館跡遺構

2. 遺跡の位置づけ

大室公園内遺跡の中核となる三二子古墳、梅木遺跡、M1号墳は、ほぼ6世紀代を中心に築造されたものである。6世紀は上毛野（群馬県）の古墳文化が大きな変化を遂げた世紀であり、大室公園内遺跡もそうした古墳文化の変容を考える上で重要な位置を占めていると考えられる。大室公園内遺跡の特色を明確にするために、県内の関連遺跡の動向を踏まえてこうした流れを概観したい。

6世紀代に先立つ5世紀中頃から後半にかけて、群馬県では東部の太田地域に全長210m、東日本最大の規模を持つ太田天神山古墳が築かれる。当時、日本の中心的勢力が存在したとされる畿内（大坂・奈良を中心とした地域）以外で、200mを越す規模の古墳は、岡山県の造山古墳（350m）、作山古墳（270m）とこの太田天神山古墳のみであり、地方勢力としての上毛野の力が全国有数のものであったことをうかがわせる。



大規模地方古墳

しかし、5世紀末から6世紀初頭にかけてこうした状態に変化があらわれる。前代あれほどの巨大古墳を築き、毛野の盟主的存在の様相が濃かった太田地域から大型前方後円墳が姿を消し、代わって、榛名山および赤城山の南麓地域に70m～100m前後の前方後円墳が出現してくる。あたかも毛野全域を睨んだ前代の大勢力が衰退し、榛名山・赤城山を臨む各水系ごとに、より分散的な新勢力が台頭してきた感がある。

こうした勢力の交替は利根川を挟んだ南の武蔵でも同様であり、この頃から埼玉古墳群を中心とした北武蔵の勢力が強くなり、南武蔵の多摩川流域を中心とした勢力が後退していくようである。また、九州地方でも6世紀の前半に地方の大豪族であった磐井が反乱を起こした後、討伐をうけたことが「日本書紀」に記されており、5世紀末から6世紀前半にかけては全国的に地方の旧勢力が徐々に中央の大和の力に押さえ込まれ後退していく様相を示す時代と言える。



大室公園内遺跡中では、まず5世紀末から6世紀前半にかけて豪族の居館跡と推定される梅木遺跡が造られ、続いて前二子古墳が築造される。時期的にも内容的にも、まさに赤城山南麓に台頭してきた新勢力の中心的存在として捉えられ、時期的にはやや先行するものの、榛名山麓の中心の勢力とみられる保渡田古墳群との対比が興味深い。

保渡田古墳群は、前二子古墳に先行する時期にまず愛宕塚古墳が造られ、続いて前二子古墳とほぼ同時期に八幡塚古墳が、中二子古墳とほぼ同時期に薬師塚古墳が築造されている。また、この古墳群と極めて関係が深いと思われる居館跡が、梅木遺跡と同時期に構築されており、同系列に属すると思われる前方後円墳が、時期的に継続して三基造られることや、これと関連する居館跡が発見されている点等、三子子古墳と極めて近い傾向をもっている。ただし、各古墳の内容は保渡田古墳群が周堀内に中島を持つことや、前二子古墳と同時期と推定される八幡塚古墳の主体部が舟形石棺である点等、異なる部分も多い。八幡塚古墳で前期的な舟形石棺を主体部としている時期に、前二子古墳ではより新しい形態である横穴式石室が採用されている点も両者の性格を考える上で興味深い。

群馬県古墳年表

時代	太田周辺	赤城山南麓	前橋周辺	榛名山幸宮	高崎周辺	碓氷・甘楽
4世紀			 			
5世紀						
6世紀						
7世紀						
8世紀						

大室公園内では、この前二子古墳に続き、中二子古墳、M1号墳、後二子古墳が、ほぼ6世紀中頃から末にわたり継続的に築造されている。6世紀代は、群馬県を中心とする地方で、形象埴輪の特異な発達や、横穴式石室の巨大化等、古墳文化が独自の傾向を持って発展した時期として知られている。これらの中で、大室公園内遺跡では、前二子古墳において、変革期の新しい勢力の台頭や初期の横穴式石室の形態が示され、M1号墳において形象埴輪が、後二子古墳において横穴式石室の巨大化の傾向が示される等、6世紀の上毛野の古墳文化を語る要素が一体となって揃うことが注目される。

これらのことから、大室公園内遺跡は、群馬県の古墳文化が大きく変革する5世紀末から6世紀にかけて、榛名山南麓の保渡田古墳群に対する赤城山麓の中核的遺跡であり、上毛野の古代を考える上で極めて重要な6世紀の古墳文化の変遷や要素を群として示せる東日本有数の遺跡と位置づけられる。



3. 遺跡の特色

先述した発掘調査の結果および位置づけから大室公園内遺跡の特色として以下の点が挙げられる。

- イ. 榛名山南麓の保渡田古墳群に対する5世紀末から6世紀にかけての赤城山南麓地域の中核的な遺跡である。
- ロ. 古墳とともにこれと関連を持ったと思われる居館跡が発見されている。
- ハ. 前二子古墳、中二子古墳、M1号墳、後二子古墳と、6世紀代にわたり継続的に古墳が営まれ、横穴式石室の採用（前二子古墳）、その巨大化（後二子古墳）、形象埴輪列の発達（M1号墳）等、群馬県の古墳文化を考える上で極めて重要な6世紀の古墳文化の様相を一体として捉える事のできる遺跡である。
- ニ. 史跡三子古墳をはじめ各々の遺跡が広く面的に保存されており、6世紀のみならず、古墳時代全般の地域的変遷をつかみうる遺跡である。
- ホ. 豊かな歴史環境とともに、良好な景観や起伏に富んだ地形等自然環境に恵まれている。

Ⅲ．構想の内容

1. 基本方針

- イ. 計画地の恵まれた景観を維持し活用していくため、現況の地形や環境を最大限生かしながら、植栽整備や便益施設の設置を行い自然な雰囲気の中で憩え楽しめる環境づくりを目指す。
- ロ. 計画地内の遺跡整備は、現況の良好な保存状態を踏まえ、現状保存を基本としながら、前二子・後二子古墳の石室、M1号墳の形象埴輪列等、遺跡を特徴づける遺構・遺物の補修、復原表示を行い一般に公開することを計画する。
- ハ. 東日本の古墳文化を考えるうえで欠かすことのできない位置を占める計画地内遺跡の歴史的特色をはじめ、赤城南麓地域の歴史・文化を一般にわかりやすく紹介するため、資料館を設けることを検討する。
- ニ. これに伴い、古墳時代住居の復原や特徴ある民家の移築復原を行い、民家変遷史をあらわす屋外展示を検討する。

以上の基本方針から本構想で検討すべきものとして次の項目が挙げられる。

1. 環境保全および整備、2. 遺跡の保存整備、3. 遺跡付帯施設（資料館、民家野外展示）、4. 便益施設、5. 利用および維持管理計画

2. 環境保全および整備

本計画では次頁のようなゾーニングを検討したが、赤城山を背景とした良好な景観を維持するため、五料沼や、ゆるやかな斜面等を含む地形や緑地の保全・整備を計画する。具体的には、次のような検討が必要である。

- 1) 植栽…………… 現況植生の調査を行った上、現在の植生を活かしながら、園路および広場沿いにシンボリックな樹木・花木を植えアクセントを付ける。計画にあたっては、花粉分析の結果を参考に、古環境も考慮したうえで樹種を選定する。
- 2) 五料沼の水質浄化…… 水辺の景観をかたちづくるものとしてふさわしい環境をつくるため、水質の浄化を行う。浄化の方法については、現況の調査を実施した上、検討する。
- 3) 造成その他…………… 現況の地形を最大限に活かし、大規模な造成等は行わないことを基本とし、現状の環境に調和した計画とする。

- 4) ゾーニング計画…………… 次の5つのゾーンに分類し、各ゾーンごとのテーマに
(土地利用計画) 基づいて整備する。

① 管理施設ゾーン

国道50号線からの主な導入路(県道深津・伊勢崎線)に面した本園地北西隅にメインの駐車場と広場を設ける。

また、五料沼の南側にも駐車場と広場を設置すると共に国道50号線ならびに県道今井・前橋線からの進入路を整備する。

② 親水ゾーン

本園地の中央に位置する五料沼を活用し、自然の中で水と親しむボート場、休憩所、ランドマークとなる建物などで、水面の景色に興行きを持たせる。

また、古代を偲ばせる水性植物の植生を検討する。

③ 教養施設ゾーン

国指定の三二子古墳を取り込み、既存の樹林を活用しながら郷土の歴史、文化(資料館、移築民家)等を保存活用し、古代住居の復原、はにわの道等を設け、野外の自然環境に触れる喜びを味わうとともに歴史教育の一環として文化財を学習するゾーンとする。

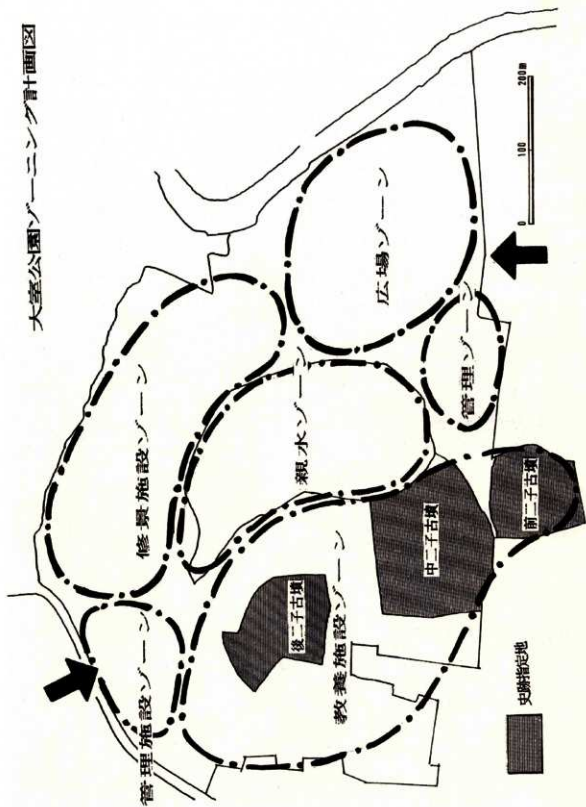
④ 修景施設ゾーン

雄大な赤城山を借景とし、南西向きの斜面の地形を利用しながら、四季感あふれる花木などで修景を演出する。

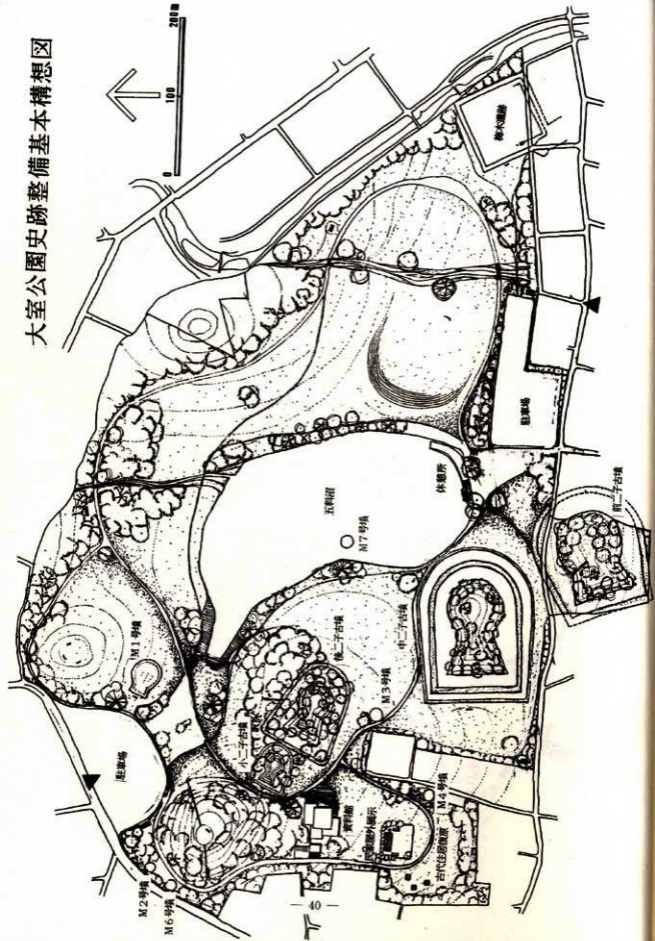
⑤ 広場ゾーン

園地の南東に位置し、フラットな地形を生かしながら水の活用を図り各広場を配置する。

大室公園ゾーニング計画図



大室公園史跡整備基本構想図



3. 遺跡の保存整備

国史跡三子古墳を中心とした古墳群および古墳時代の居館跡（梅木遺跡）等を含む計画地内遺跡の保存・活用を検討する。主な方針は次のとおりである。

古墳周辺の樹木については、遺構の保存および環境の保存の為、適宜、間伐を行う。

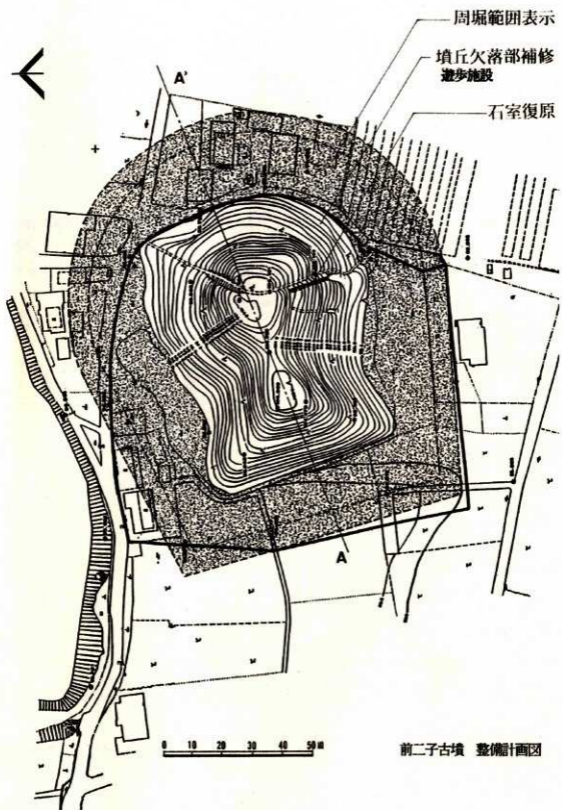
	墳丘部	石室	周堀	その他
前二子	欠落部補修 遊歩施設	前庭部・ 石室復原	確認調査	隣接地について確認調査。土地購入後、整備することが望まれる。
中二子	欠落部補修	物理探査	確認調査	周堀内圍路（周堤帯）
後二子	欠落部補修 遊歩施設	前庭部・ 石室復原	確認調査	
小二子 古墳	調査 全体復原	確認調査 復原	確認調査	
M1号墳	復原整備	—	復原整備	出土状況を元に埴輪列（複製品）を復原配置する。
M2号墳	—	—	—	当面現況保存とするが、将来学術調査が行われることが望ましい。
M3号墳	—	—	—	”
M4号墳	—	—	—	”
五料沼内 及びその 他古墳				”
梅木遺跡	—	—	—	当面盛土保存としたうえ、低木で位置を示し、現在の公園予定地より南側の遺跡の主要部は、将来土地購入を行い、復原もしくは保存整備されることが望まれる。

前二子古墳

- 墳丘 …… 基本的に現状保存とし、欠落部の補修を行う。遺構保存および環境の保存のため、樹木は適宜、間伐を行う。見学者のための墳頂への遊歩施設を検討する。
- 石室 …… 前二子古墳の特色の一つと考えられる羨道部の長い、狭長な形態を示すため、調査の上、現在土に埋もれている前庭部および石室を補修・復原し、公開する。
- 周堀 …… 公園計画地外の隣接地を含め、範囲確認の調査を行い、土地購入後、植栽等によりその範囲を明示するための整備を行うことが望ましい。当面は、公園計画地内のみでの整備を検討する。



前二子古墳 墳丘断面図



周堀範囲表示

墳丘欠落部補修
遊歩施設

石室復原

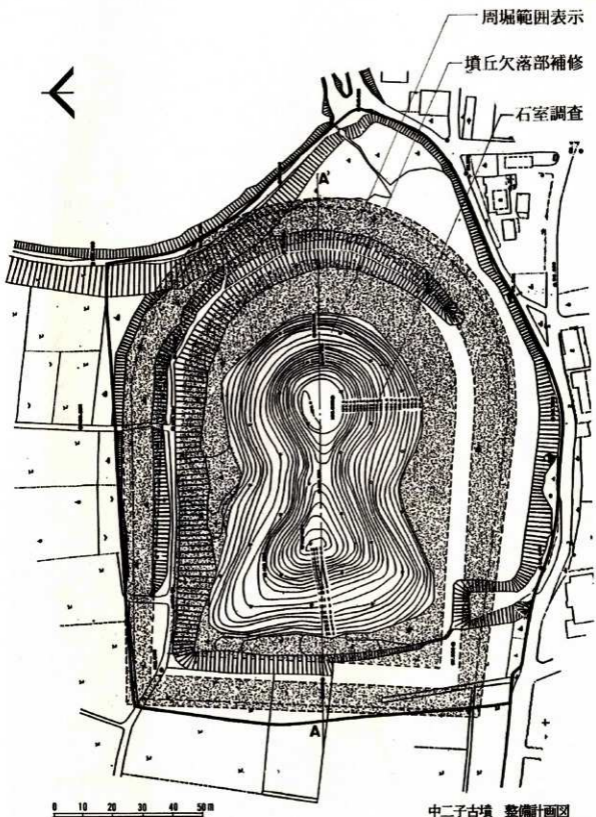
前二子古墳 整備計画図

中二子古墳

- 墳丘 …… 現状保存を基本とし、欠落部の補修を行う。遺構保存および環境の保存のため、樹木は適宜間伐する。
- 石室 …… 現在未確認のため、確認調査を計画する。調査にあたっては、保存上から、物理探査等の科学的方法を導入し、最小の調査で最大の効果があげられるよう検討する。
- 周堀 …… 現在、県内唯一の水堀を有し（後世灌漑用溜池として利用されたためか）、三子古墳のなかでただ一つ二重周堀が確認されている。この特色を考慮し、確認調査の上、その形態および範囲を明示することを計画する。



中二子古墳 墳丘断面図

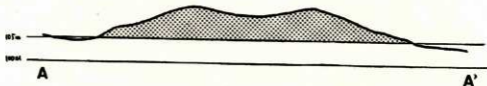


後二子古墳

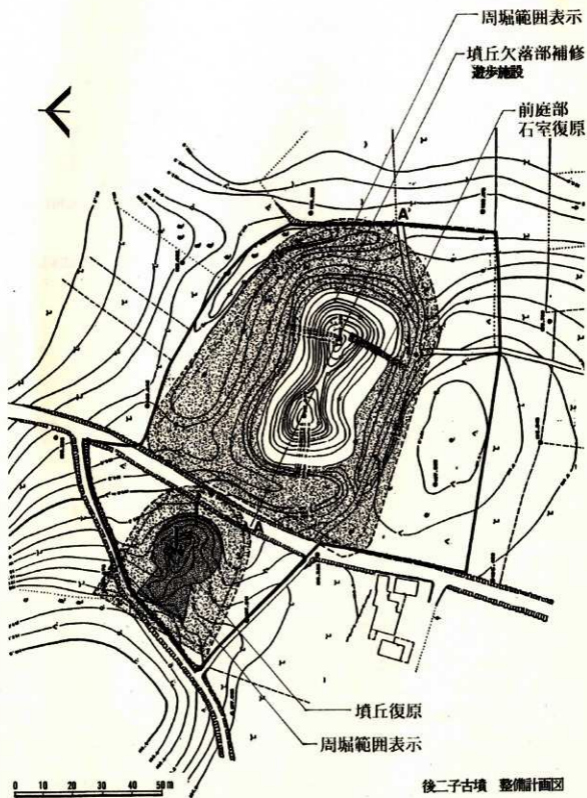
- 墳丘 …… 基本的に現状保存とし、欠落部の補修を行う。遺構保存および環境の保存のため、樹木は適宜、間伐を行う。見学者のための墳頂への遊歩施設を検討する。
- 石室 …… 後二子古墳の特色の一つと考えられる自然石の巨石を用いた石室の形態を示すため、調査の上、現在土に埋もれている石室を補修・復原し、公開する。
- 周堀 …… 範囲確認調査を行ったうえ、その範囲を明示する。

小二子古墳

- 墳丘 …… 調査のうえ、復原することを検討する。
- 石室 …… 調査のうえ、復原することを検討する。
- 周堀 …… 範囲確認調査を行ったうえ、その範囲を明示する。

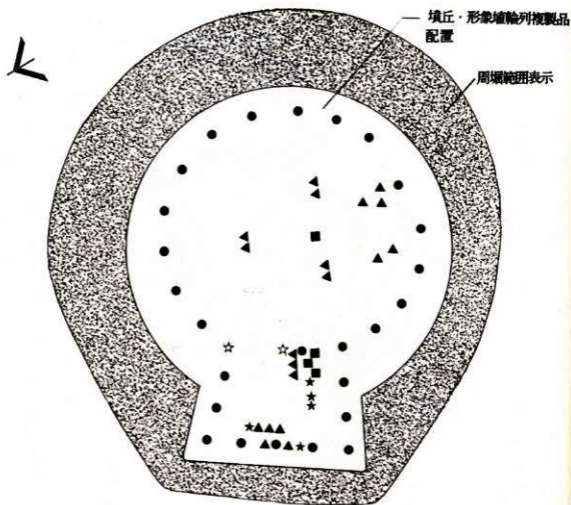


後二子古墳 墳丘断面図

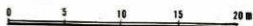


M1号墳

現在、計画地内に残る古墳のうち、唯一全容が把握できる調査が行われ、特徴的な形象埴輪列を有していることを踏まえ、埴輪列（複製品）を含めて、全面的な復原整備を行うことを検討する。

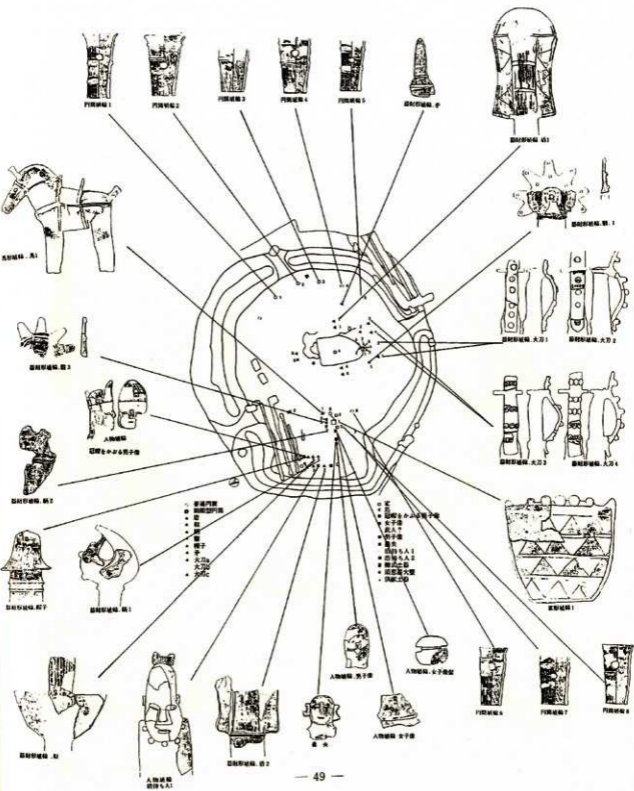


- 円筒および朝顔型埴輪
- ▲ 器財埴輪
- 家型埴輪
- ☆ 馬型埴輪
- ★ 人物埴輪



M1号墳 整備計画図

M1号坑随葬品配置复原图



内陶甗 1

内陶甗 2

内陶甗 3

内陶甗 4

内陶甗 5

漆棺

陶尊

漆棺

陶尊

陶尊

陶尊

陶尊

陶尊

陶尊

陶尊

陶尊

陶尊

陶尊

陶尊

- 漆棺
- 陶尊
- 漆棺
- 漆棺
- 漆棺
- 漆棺
- 漆棺
- 漆棺
- 漆棺

- 漆棺
- 陶尊
- 漆棺
- 漆棺
- 漆棺
- 漆棺
- 漆棺
- 漆棺
- 漆棺

陶尊

陶尊

陶尊

陶尊

陶尊

陶尊

陶尊

陶尊

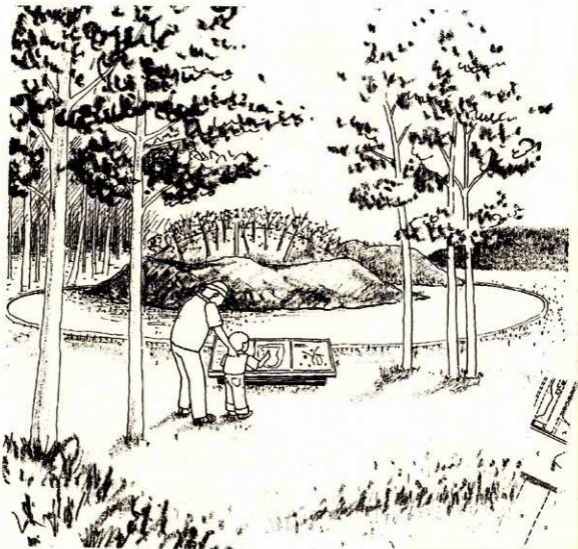
陶尊

梅木遺跡

梅木遺跡は、大型古墳と一体となる豪族の居館跡という全国的に極めて興味深い遺跡である。そこで、当面盛土保存としたうえ、低木で位置を示し、現在の公園予定地より南側の遺跡の主要部は、将来土地購入を行い、復原もしくは保存整備されることが望ましい。

その他の遺跡

M2～M4月墳、五料沼内古墳、その他の遺跡については、現況保存の方針とする。



4. 遺跡付帯施設

遺跡整備に付帯する施設として、公園内遺跡のガイドンス施設を兼ねた資料館を設置する。また、古代住居の復原および赤城型民家の移築復原を行い、民家の屋外展示を検討する。

位置については、公園の全体構想との関連において調和のとれた場所を選定する必要がある、下記の内容を検討した。

1. 公園の主入口に近く、導入部の景観をこわさない位置
 2. 古墳群に近く、古墳とは十分な距離を持つゆとりのある位置
 3. 資料館と民家復原や古代住居復原等が一つのまとまりを持ち維持管理し易い位置
- これらの検討の結果、敷地南西隅の位置を選地した。

資料館構想

資料館の計画において、以下の項目を検討する。

- ① 個性のある資料館構想を計画立案する。
- ② 群馬県における横穴式石室が初期から最盛期の時代に至るまで存在する史跡三二子古墳の特徴を踏まえ、横穴式石室調査・研究の拠点とする。
- ③ 史跡三二子古墳を中心とした遺跡の全容をわかり易く案内・説明するためのガイドンスコーナーを設ける。
- ④ 荒砥地区を中心とした前橋市東部の、地域的な自然、人文、景観に立脚した資料館とする。
- ⑤ 上記を踏まえ、赤城山の生い立ち、赤城神の信仰、周辺地域の文化遺産等のテーマを設け、地域の歴史・風土性の理解を助ける。
- ⑥ また、三二子古墳とそれを取り巻く歴史的・自然的環境の復原と展示を行うとともに、芳賀地区や荒砥地区での発掘調査で蓄積された考古資料の活用を行う。
- ⑦ ミュージアム・ショップ
出土遺物等のミニチュアや複製品、その他遺跡にからむお土産のコーナー等を設ける。
- ⑧ 小稲荷古墳ことうかの発掘調査により出土し保存してある切石を使い、石室を館外に復原し展示する。



実例1 カナダ、UBC人類博物館のエントランス・ホール



実例2 アメリカ、グランドキャニオン・ヒストリータワーの
インディアン絵画のギャラリー



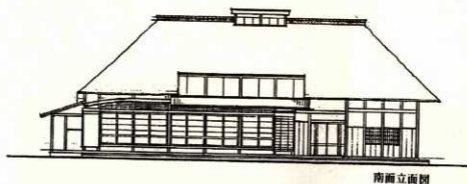
実例3 アメリカ、ニューメキシコ自然博物館内のミュージアム・ショップ



実例4 アメリカ、グランドキャニオン・ビジターセンターの
インフォメーション

民家屋外展示構想

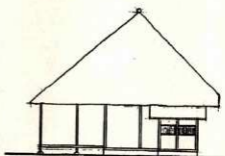
- 古墳時代当時の住いや生活を学ぶため、古代住居の復原を行う。
- また、当地域特有の民家である赤城型民家をはじめ、それ以外の特徴ある民家を含め、母屋だけでなく、付属の建物、屋敷林、周囲の田畑を含めて移築もしくは復原する。
- また、建具、家具、衣類、食器、農耕具も使用可能な状態に置き、実際に使用する。
- その他、ここを年中行事の再現、伝統芸能の公開、生涯学習の場として活用する。



南面立面図



東面立面図



西面立面図

前橋市指定重要文化財日岡根家住宅図面



横浜市横溝家整備例



石岡市古代家屋復原例

5. 便益施設計画

その他、来園者の為の便益施設や維持管理のための施設計画を行う。

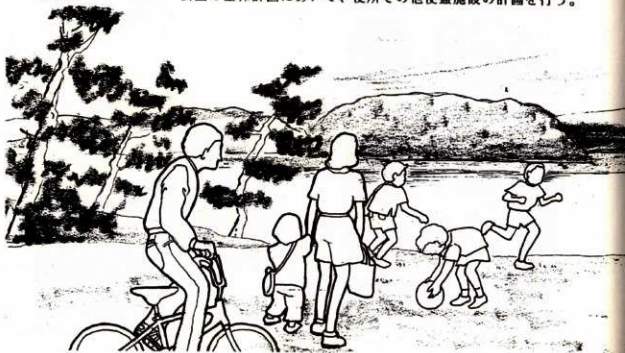
駐車場 …………… 国道50号線からの主な導入路（県道深津伊勢崎線）に面した計画地北西隅にメインの駐車場を設ける。また五料沼の南側に駐車場を設置すると共に、国道50号線ならびに県道今井前橋線からの進入路を整備することが望ましい。

管理棟 …………… 資料館近くに設ける。

休憩所 …………… 赤城山の眺望が楽しめる五料沼南側のほとりに設ける。

説明板 …………… 遺構の説明は、全容をガイダンスの案内コーナーで行うこととし、個別の説明板を景観をこわさぬよう適宜設置する。

その他 …………… 公園の全体計画において、便所その他便益施設の計画を行う。



6. 利用計画

より広い活用を目指し、公園の総合的な企画と併せて各種イベント等の実施を計画する。

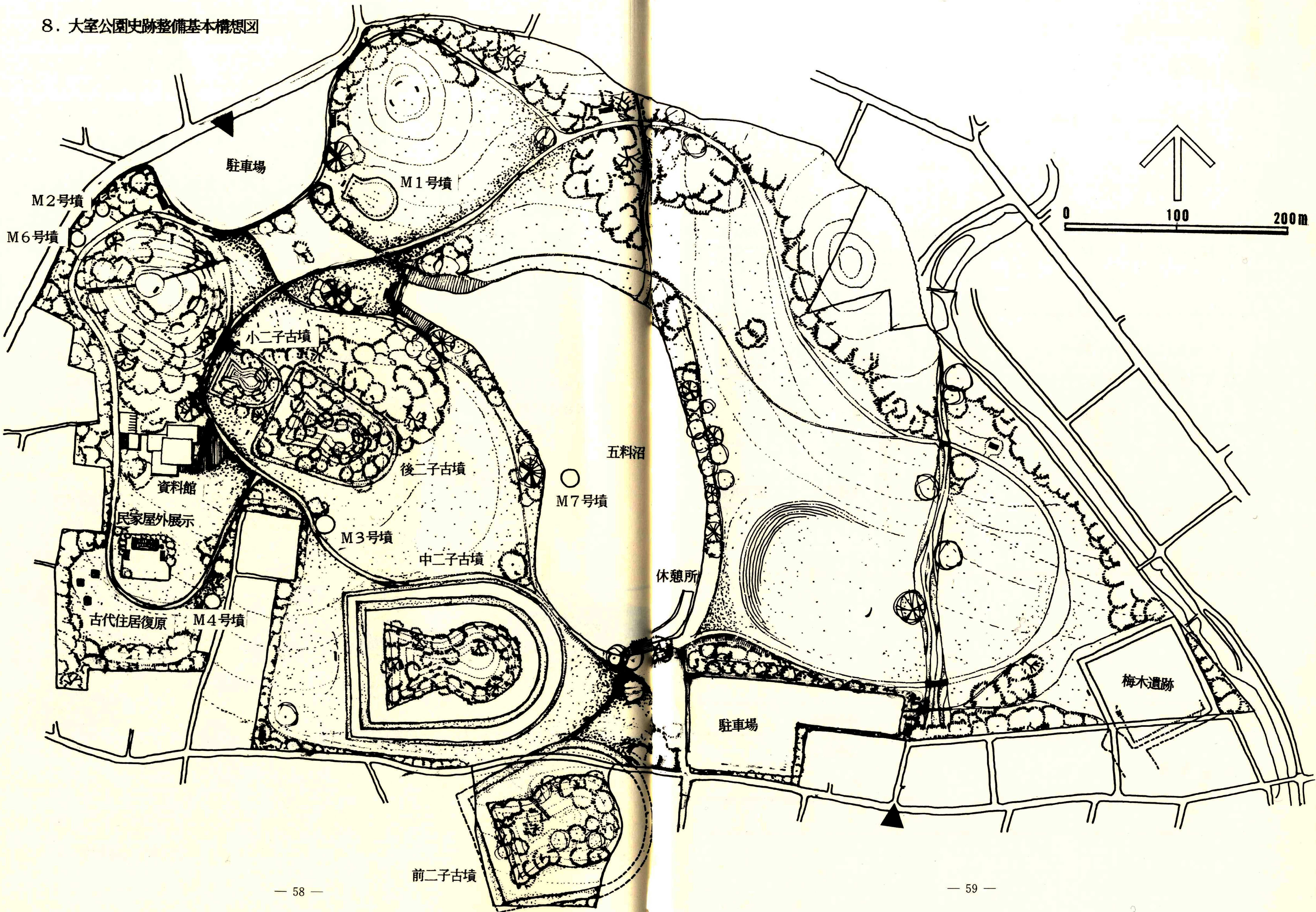
7. 維持管理計画

資料館、民家、復原住居、史跡、公園を含めた総合的な維持管理の方法を検討の上、具体的計画を立案する必要がある。効果的な維持管理のため、日常的な維持管理は、各種団体等の協力を得て行うことも検討する。



大室公園 史跡整備イメージ図

8. 大室公園史跡整備基本構想図



9. 事業計画

		1989年	1990年	1991年	1992年
		元年	2年	3年	4年
史跡整備	(調査 計画 整備)	企画	基本構想	古墳1 確認調査	基本設計
				古墳2 確認調査	
			古墳現況測量		
民家変遷	(調査 計画 実施)		企画	調査・基本設計	実施設計
資料館	(展示 建物)			企画	基本構想
公園整備	計画 整備	企画	基本構想	基本設計	
				実施設計	

1993年	1994年	1995年	1996年	1997年	1998年
5年	6年	7年	8年	9年	10年
実施設計	整備	整備	整備		
基本設計	実施設計				
古墳3確認調査	基本設計	実施設計	整備		
工事					
基本設計	実施設計	工事			
.....					
	工事				

IV. 附

1. 大室公園史跡整備委員会の経過

平成元年度

- ・平成2年2月16日 **平成元年度第1回大室公園史跡整備委員会開催**
(委嘱状の交付、設置及び運営案の審議、委員長の選出、委員・幹事より史跡整備について考えを伺う)
- ・平成2年3月26日 文化庁記念物課へ第1回委員会の内容報告及び指導
(田中主任調査官・加藤調査官より指導)

平成2年度

- ・平成2年5月28日 **平成2年度第1回大室公園史跡整備幹事会開催**
(平成2年度の取り組み、史跡整備基本構想の骨子を審議)
- ・平成2年6月26・27日 大室公園史跡整備幹事会調査研究視察実施
(山梨県甲斐風土記の丘・曾根丘陵公園見学)
- ・平成2年6月29日 文化庁記念物課へ平成2年度第1回委員会の事前指導
(田中主任調査官・加藤調査官より指導)
- ・平成2年7月27日 **平成2年度第1回大室公園史跡整備委員会開催**
(平成2年度の取り組み、史跡整備基本構想の骨子を審議)
- ・平成2年8月22日 文化庁記念物課へ平成2年度第1回委員会の報告と指導
(加藤調査官より指導、基本構想の骨子を確認)
- ・平成2年11月6日 **平成2年度第2回大室公園史跡整備幹事会開催**
(基本構想(案)を審議)
- ・平成2年11月20日 文化庁記念物課へ平成2年度第2回委員会の事前指導
(加藤調査官より指導)
- ・平成2年11月27日 **平成2年度第2回大室公園史跡整備委員会開催**
(基本構想(案)を審議、事務局案を承認)
- ・平成2年12月14・15日 文化庁加藤調査官大室公園史跡整備現地指導のため来訪
(前・中・後二子古墳の整備を中心に指導を受ける)
- ・平成3年3月 文化庁記念物課へ「大室公園史跡整備基本構想」を提出

2. 大室公園史跡整備委員会の設置及び運営要綱

(設置)

第1条 大室公園史跡(前・中・後二子古墳)の整備に関し、その万全を期するため、大室公園史跡整備委員会(以下「委員会」という。)を設ける。

(任務)

第2条 委員会は、市教育委員会の求めに応じて大室公園史跡整備事業の基本計画の策定及び事業の円滑な実施を図る。

(組織)

第3条 委員会は、学識経験者、県・市関係職員をもって組織する。
2. 委員会は、委員及び幹事により組織する。

(委嘱)

第4条 委員及び幹事は、前橋市長が委嘱する。

(任期)

第5条 委員及び幹事の任期は1年とする。但し、県・市関係職員については、その在任期間とする。

(委員長)

第6条 委員会に委員長及び副委員長各1人を置き、委員の互選によって、これを定める。
2. 委員長は、会務を掌握し会を代表する。
3. 副委員長は、委員長を補佐し、委員長に事故があるときは、その職務を代理する。
4. 幹事は、委員を補佐し、委員会に関する専門的な事務を掌握する。

(招集)

第7条 委員会の会議は、委員長が招集し、委員長がその議長となる。
2. 幹事の会議は、幹事長が議長となる。

(庶務)

第8条 委員会の庶務は、事務局で行う。

(雑則)

第9条 この要綱に定めるもののほか必要な事項は、別に定める。

付 則

この要綱は、平成2年2月16日から施行する。

3. 大室公園史跡整備委員会組織

	氏名	職名	担当年度	
指導	加藤 允彦	文化庁文化財保護部記念物課 文化財調査官	元・2	
顧問	岡本 信正	前橋市教育委員会教育長	元・2	
委員長	近藤 義雄	前橋市文化財調査委員	元・2	
副委員長	白石 太一郎	国立歴史民俗博物館教授(古墳)	元・2	
委員	進士 五十八	東京農業大学教授(造園学)	元・2	
	中沢 右吾	前橋市文化財調査委員	元・2	
	伊東 功	群馬県都市施設課長	元・2	
	梅沢 重昭	群馬県教育委員会文化財保護課長	元・2	
	関口 和雄	前橋市総務部長	元・2	
	大嶋 昭一	前橋市公園緑地部長	元・2	
	遠藤 次也	前橋市教育委員会管理部長	2	
	竹 茂夫	前橋市教育委員会指導部長	2	
	二瓶 益巳	前橋市教育委員会管理部長	元	
	小野塚 智男	前橋市教育委員会指導部長	元	
	幹事長	松島 榮治	前橋市文化財調査委員	元・2
	副幹事長	井上 唯雄	勢多郡東村立果小学校長	元・2
	幹事	丸山 知良	前橋市文化財調査委員	元・2
阿久津 宗二		群馬県立歴史博物館副館長	元・2	
桑原 豊		国立豊田工業高等専門学校教授 (造園学)	元・2	
中澤 正之		群馬県都市施設課公園緑地係長	2	
小池 昌男		群馬県都市施設課公園緑地係長	元	
秋池 武		群馬県教育委員会文化財保護課 埋蔵文化財第二係長	元・2	
西田 健彦		群馬県教育委員会文化財保護課主任	元・2	
榎場 一寿		群馬県立桐生女子高等学校教諭 (前群馬県埋蔵文化財調査事業団 調査研究第二係長)	元・2	
立川 宏二		前橋市総務部財政課長	元・2	
郷丸 荘太郎		前橋市都市計画部園路課長	2	
平田 次男		前橋市公園緑地部公園緑地課長	元・2	
吉沢 節生		前橋市公園緑地部公園管理課長	元・2	
渡辺 勝利		前橋市教育委員会総務課長	元・2	
福田 紀雄		前橋市教育委員会文化財保護課長	元・2	

	氏名	職名	担当年度
事務局	福田 紀雄	幹事と兼務	元・2
	郷丸 荘太郎	前橋市公園緑地課長補佐	元
	田中 正博	前橋市公園緑地課施設第二係長	2
	高橋 賢靖	前橋市教育委員会文化財保護課 文化財保護係長	元・2
	遠藤 和夫	前橋市教育委員会文化財保護課 埋蔵文化財係長	元・2
	濱田 博一	前橋市教育委員会文化財保護課 埋蔵文化財係長	元
	須田 哲夫	前橋市公園緑地課主任	元・2
	丸山 直人	前橋市公園緑地課主任	元・2
	駒倉 秀一	前教委文化財保護課主任	2
	高橋 正男	前橋市教育委員会文化財保護課主任	2
	園部 守央	前橋市教育委員会文化財保護課主任	元・2
	井野 修二	前橋市教育委員会文化財保護課主任	2
	前原 豊	前橋市教育委員会文化財保護課主任	2
	伊藤 良	前橋市教育委員会文化財保護課主任	2
	関根 吉晴	前橋市教育委員会文化財保護課主任	元
	鈴木 豊浩	前橋市教育委員会文化財保護課主事	元

※ 担当年度

元……平成元年度

2……平成2年度

あ と が き

大室公園史跡整備基本構想策定事業は、平成元年度・平成2年度の2か年事業として、前橋市西大室町・東大室町に建設が予定される大室公園内の国指定史跡前二子古墳・中二子古墳・後二子古墳附小古墳を中心とする史跡整備の基本構想を策定した事業です。

基本構想策定にあたっては、文化庁記念物課加藤調査官、国立歴史民俗博物館白石太一郎氏、東京農業大学進士五十八氏、及び大室公園史跡整備委員会の近藤義雄委員長、松島栄治幹事長をはじめとして、委員・幹事各位に指導・助言を賜りました。

基本構想策定の委員会・幹事会は、計5回開催し、委員・幹事各位におかれましては、激職にもかかわらず、深い学識経験に基づいた慎重な審議を積重ねていただき、多くの適切なお意見・ご示唆を得ることができました。

また、平成2年12月14・15日には、文化庁・加藤調査官を前橋にお迎えし、大室公園内の史跡の現地指導を受け、貴重なご意見を具体的に賜りました。

教育委員会文化財保護課と公園緑地部公園緑地課で構成された事務局では、計20回に及ぶ打ち合わせを開き、委員会・幹事会、現地指導、調査研究視察等で教示していただいた内容を整理編集し、本基本構想を策定しました。構想に示された内容については、史跡の現況を踏まえうえて、史跡の保存・活用を図るための整備の構想を定めたわけですが、必ずしも最終的な結論ではありません。今後も、大室公園造成との関連を十分考慮しながら検討していくことが必要と考えております。

本基本構想が、このかけがえのない史跡の保護・整備・活用のために役立つことを心より念願するものであります。この稿を結ぶにあたって、終始ご尽力とご協力をいただきました関係各位に対し、心から感謝するとともに、今後とも暖かいご理解とご協力をいただきますようお願い申し上げます。

平成3年3月

前橋市教育委員会

教育長 岡 本 信 正

大室公園史跡整備基本構想

平成3年3月 発行

発行 前 橋 市
前橋市教育委員会
群馬県前橋市大手町2-12-1
TEL.0272-24-1111

編集 前橋市教育委員会文化財保護課
群馬県前橋市上泉町664-4
TEL.0272-31-9531・9862
幡歴史環境計画研究所
東京都武蔵野市吉祥寺東町2-17-1
TEL.0422-20-3675
